

**製品名: Kv1.3 (リン酸化Tyr187) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04929**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	58kDa

**抗原情報**

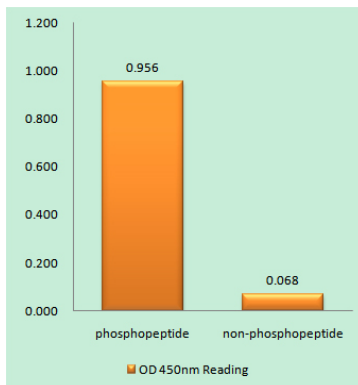
遺伝子名	KCNA3
別名	KCNA3; HGK5; Potassium voltage-gated channel subfamily A member 3; HGK5; HLK3; HPCN3; Voltage-gated K(+) channel HuKIII; Voltage-gated potassium channel subunit Kv1.3
遺伝子 ID	3738.0
SwissProt ID	P22001
免疫原	抗血清は、ヒト Kv1.3/KCNA3 の Tyr135 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

**背景**

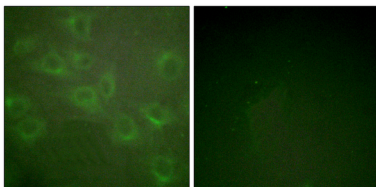
カリウムチャンネルは、機能的および構造的観点の両方から、電位依存性イオンチャンネルの中で最も複雑なクラスに属します。その多様な機能には、神経伝達物質の放出、心拍数、インスリン分泌、神経細胞の興奮性、上皮電解質輸送、平滑筋収縮、細胞容積の調節が含まれます。ショウジョウバエでは、shaker、shaw、shab、shal という4つの配列関連カリウムチャンネル遺伝子が同定されており、それぞれにヒト相同遺伝子が存在することが示されています。この遺伝子は、電位依存性カリウムチャンネル shaker 関連サブファミリーのメンバーをコードします。このメンバーは、6つの膜貫通ドメインと、第4セグメントに shaker 型リピート配列を有しています。このメンバーは、神経細胞が活動電位に続いて効率的に再分極することを可能にする、遅延整流クラスに属します。T細胞の増殖に不可欠な役割を果たします。注意：Met-1 と Met-53 のどちらがイニシエーターであるかは不明です。ドメイン：N末端はチャンネルの不活性化速度の決定に重要な役割を果たす可能性があり、テールはチャンネル活性の調節や特定の細胞内区画へのチャンネルの標的化に役割を果たす可能性があります。ドメイン：セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3つおきの位置に一連の正電荷を帯びたアミノ酸が配置されているのが特徴です。機能：興奮性膜の電圧依存性カリウムイオン透過性を媒介します。膜を挟んだ電圧差に応じて開構造または閉構造をとると、このタンパク質はカリウムイオンが電気化学的勾配に従って通過できるカリウム選択性チャンネルを形成します。配列注意：翻訳によりN末端が延長されます。類似性：カリウムチャンネルファミリーに属します。(Shaker) サブファミリーです。サブユニット：カリウムチャンネルタンパク質のヘテロ四量体。DLG1、DLG2、DLG4のPDZドメインに結合します。

## 研究分野

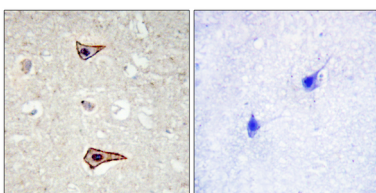
## 画像データ



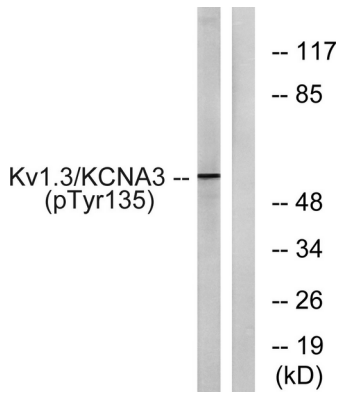
Kv1.3/KCNA3 (リン酸化 Tyr135) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Kv1.3/KCNA3 (リン酸化 Tyr135) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



Kv1.3/KCNA3 (リン酸化 Tyr135) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



24時間飢餓処理した Jurkat 細胞のライセートを Kv1.3/KCNA3 (リン酸化 Tyr135) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。